

研究することが  
暮らしの一部で、当たり前



平日は仕事が終わると2階にある機材でトレーニングをするのが日課だ。そう。服が似合う体型を保ちたいから、毎日1〜2時間は体を動かす。夜11時くらいに帰宅してからは、動画サイトで車の整備や革靴のお手入れの動画を観るのがお決まりの流れ。「早く寝ればいいんですけど、私にとって自分の好きなことに没頭する時間が必要で、ないと余計しんどいです」。コツコツと正直に作業を積み重ねる、ということが秀作さんの性に合っているのか、仕事への姿勢にも繋がるものがあるように感じた。

これから叶えたい夢は、と尋ねると「コロナ禍でクリーニング業界も厳しいんですよ。受け継いだ会社だから、きっちり守りたい」ということに加え、「ハイブランドのダウンや羽毛ふとんに特化したネット経由のクリーニングを立ち上げたので、それを広めていきたい」と話してくれた。

前は落とせなかった汚れが落とせるようになることもあるし、数年後はその手法もまた変わっているかもしれない。ゴールはない。一着一着の衣類と向き合いながら、クリーニングの道を突き詰めている。



たくみ



クリーニングの白鳥 代表

# 大坪秀作

1着のキレイさに  
誇りをかける  
衣類ケアの職人

# 「クリーニングの白鳥」



昭和37年創業、地域で長年愛されるクリーニング店。「洗う・キレイにする」だけのクリーニングではなく、洋服の素材・風合い・シルエットをケア・メンテナンスする「テキスタイルケア」として技術を磨き、「一般社団法人日本テキスタイルケア協会」でもウェットクリーニング試験適合認定を受けている。

☎ 0942-65-1741  
住所/久留米市三猪町福光460-2

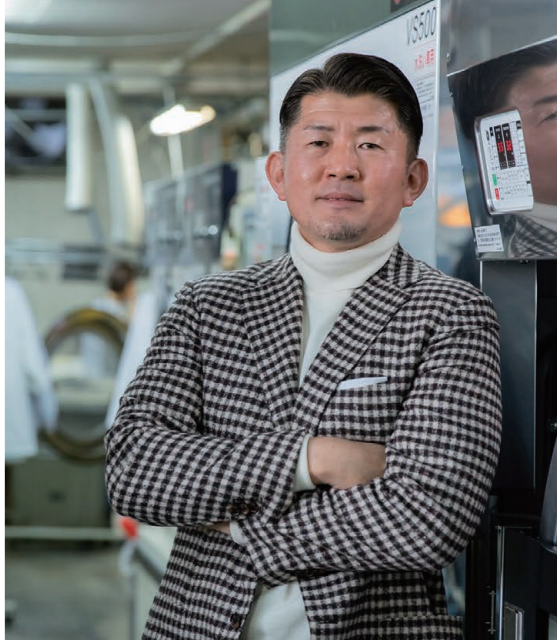


史上最高の  
空気感を味わう。

ダウン・フェザー  
クリーニング  
注文サイト







Profile 大坪 秀作さん

22歳のときに父が営んできたクリーニング店を任せられ、[クリーニングの白鳥]2代目店主に。従来のドライクリーニングに加え、デリケート衣類をケアする「揉まない・叩かない・回さない」新洗浄方法を提案。「久留米市優秀技能士」でもある。

### 仕上がりで負けない店に

店の奥から現れた秀作さんは、仕事中ということもあり動きやすい服装である一方で、きっちりとした佇まいが印象的だ。背筋がピンと伸び、髪も綺麗に整えられていて、凛とした雰囲気漂う。だが、席に着くなり優しい笑顔になり、そのギャップが和んだ。

「私は服が好きなんです」とまっ

すぐに話す秀作さんは、22歳のときにクリーニング店を父から任せられ、業界の勉強会に参加してきた。たくさんの先輩や仲間との出会いがあり技術も得られたが、10年くらいモヤモヤとした思いを抱えてきたそう。

「ドライクリーニング溶剤は通常透明で、使うと衣類の汚れや色でどんどん汚れて、コーラやコーヒーのような色になります。その溶剤で白い

## 服をキレイにしてお客様に返す、

## この本分にとどこまでも真摯に



### ドライ一択から、衣類の「ケア」へ

クリーニング店ではどんな繊維でもどんな汚れでも、ドライクリーニングをするのを前提としているのだそうだ。ハイブランドのものや型崩れしやすいもの、高級なダウンもあるが、そういったデリケートな衣類を水洗いするには高い技術力が必要となるため、ドライクリーニング溶剤に漬け、数十秒だけ機械を回す、という店も多い。

「この汚れはどうやってキレイにするんすか、溶剤の汚れてどうなんすかって、先輩や洗剤メーカーの営業マンに疑問をたくさんぶつけてきました。ありがたいことに知識のある人たちに可愛がってもらってね。その繋がりです。新しい水洗いの機械のうちが一番に導入したんです」。

ドライクリーニングは化粧や皮脂汚れは落とせるが、汗汚れや塩分など水溶性の汚れは水洗いをする必要がある。だから、汚れの種類や度合い、繊維の種類に合わせて水洗いとドライクリーニングを使い分けなければならない。秀作さんが辿り着いたのは、ドライクリーニング一択の常識から、水洗いも取り入れて数年後もキレイに着られるよう衣類をケアする、という考えだ。

「私は水洗いがすべての基本だと考えています。自分が一番納得できる洗い方しかない。自分で全



部の仕分けをして、その服にとって何が最善かを考えるんです。時間も手間もかかるから繁忙期にはお待たせすることになるけど、それがうちのやり方です」。

この真摯な言葉に宿るのは、まさに職人の意地。衣類をキレイにして返す、というクリーニング店の本分を貫く秀作さんのプライドが表れている。多くの人が、大事な衣類こそこの人に任せたい、と思う理由はここにあるのだ。

### 匠人 3のことに聞く

#### 1 洋服の販売などの仕事をしたいという思いは？

ないですね。父の仕事ぶりを見てきましたから、引き継ぐことを自然と考えていました。自分の好みの服を着るのが好きですね。

#### 2 休みの日は何をしていますか？

休みってないんですよ。店休日でも営業車で回ったり、店の掃除や機械のメンテをしたり。休みがなくて嫌だ、という思いもなく、これが生活のリズム、という感覚です。

#### 3 スーツが似合いそうですね！

それがね、ウエストと肩の部分のバランスに差がありすぎて、上着が入らないんですよ。

### わたしの情熱の源泉

#### 【靴磨き】

革靴がとても好きで、お気に入りがたくさんあります。無心で靴を磨いて手入れをして、日頃の疲れをリフレッシュしています。



繊維も洗っている店はいくらでも。汚れは落ちないし、匂いもつく。でも溶剤の交換にはコストが掛かるから、それが現実です」。

キレイに洗いたい理想と、かけ離れた現実。一般の人にはドライクリーニングに出せば服はキレイになる、それでも落ちない汚れは仕方がない、との思い込みがある。クリーニングはどこも同じに思われがちで、店側もコスト重視のオペレーションになってしまふ。

「でも私そういうの嫌なんです。お客様に対して、そういう仕事をしていいのかってこと。白い物はくすむし、汚れは落ちない。適当にチャチャッと流せばいいんですけど、私はしたくない。満足してもらうために仕事しているわけですから」。

コストと時間の競争が激しいなか、お客様が数年先もその服を着られるように、と考え、敢えて仕上がりが最優先のクリーニング店として舵を切った。

「店によって違う強みがあると思うんです。私はコストが掛かるとしても、汚れをしっかりと落としてキレイに仕上げたい、お客様に対してそういう仕事をしていきたい。仕上がりに負けたくないんです。だからうちは溶剤管理を徹底していて、いつも透明の状態を保っています。利用者からすると見えない、いわばブラックボックスの部分。だが、秀作さんはそこにとどこまでも正直なのだ。」